若者の政治参加を促すために
主権者教育のさらなる充実を

子ども議会の取組で
若者も政治参加を



石川　周三
（いしかわ しゅうぞう）

録画映像
はこちら

主権者教育の充実について

小中学校における主権者教育の取組について。

教育長　これまで実施してきた子ども議会においては、児童が自らの意見を堂々と述べる姿が見られ、主権者意識の芽生えという大きな成果を感じている。議員から提案いただいた、他者への共有、中学生議会への発展、模擬選挙の導入などは、本市の主権者教育をさらに高めるうえで大変貴重な意見と受け止めている。

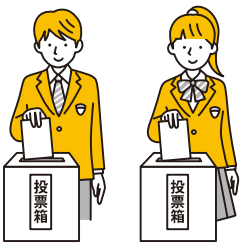
これらの提言や学校現場の状況を踏まえ、選挙管理委員会などとも連携を図りながら、子どもたちの発達段階に応じた実践的な主権者教育の推進に引き続き努めていく。

子ども・若者の意見を市政につなげる仕組みについて、子どもたちの意見が反映されることで、市政を身近に感じてもらえるのではないでしょうか。

総務部長　最も身近な社会である「学校」の場で体験を積み重ねることが効果的と考えている。そのうえで、市の最上位計画である「第６次結城市総合計画後期基本計画」の策定の際には、次世代を担う若者を中心とした「市民ワークショップ」や「若手職員未来デザインチーム」を開催したり、広聴事業「市長と語ろう結城の未来」でスケートボード愛好者と懇談したほか、11月には鬼怒商業高等学校の生徒たちと「まちづくり」の情報交換が予定されており、若者の意見を聞く場を積極的に設けている。

小学生から高校生まで継続した主権者教育について。

市長　意識調査では、若者が投票に行かない要因として「自分の一票では社会は変わらない」という無力感や知識不足への不安が挙げられており、地域の課題が「他人事」になっている。今後も、教育委員会、選挙管理委員会、市長部局に加え、市議会にもご協力を賜り、若者が「まちづくりを自分事」と考えられる環境づくりを推進していく。



※一般質問の掲載記事は、発言議員本人からの寄稿によるものです。